

造血幹細胞移植のすべて

内容目次

第1章 移植法の実際

1. 移植法の実際

第2章 基礎編

1. 造血幹細胞の特徴
 - 1) 骨髄幹細胞
 - 2) 末梢血幹細胞
 - 3) 臍帯血幹細胞
2. 造血幹細胞の分化と増幅
3. 造血幹細胞の可塑性
4. 造血幹細胞の体外増幅
5. 基礎から臨床応用まで；造血因子とそのレセプター
6. 幹細胞と再生医学
7. ES細胞から血液細胞へ
8. 移植後の免疫機構再構築
9. 造血幹細胞を用いた遺伝子治療
10. 骨髄内骨髄移植
11. 主要組織適合性遺伝子複合体
12. 非HLA適合性 = マイナー組織適合性抗原その他の遺伝子の影響
13. GVHDとGVL
14. NK細胞レセプターと同種免疫反応
15. 造血幹細胞移植の歴史

第3章 造血幹細胞移植の種類と特徴

1. 骨髄移植
2. 末梢血幹細胞移植
3. 臍帯血移植
4. 骨髄非破壊的移植 (RIST)
5. どのようなときにどのような移植を行うか

第4章 移植手技

1. 全身放射線照射
2. カテーテルとその管理
3. 無菌室管理
4. 通常移植とミニ移植のコンディショニング
5. 骨髄の採取と保存
6. 末梢血幹細胞採取・保存
7. 臍帯血の採取と保存・管理
8. 凍結保存細胞の解凍と使用時の注意点
9. 血縁HLA不適合移植
10. 母子間免疫寛容を利用したHLA不一致移植
11. 腫瘍細胞のパーズング
12. 純化CD34陽性細胞移植
13. キメリズムの検査
14. ウイルス感染症の検査

15. ドナーリンパ球輸注
16. CTLを用いる治療
17. 免疫抑制剤の種類と使い方
18. 抗ウイルス剤の種類と使い方

第5章 ドナーの安全性確保

1. 適格性
2. 骨髄採取時の注意点
3. 末梢血幹細胞採取時の注意点
4. 法律問題

第6章 骨髄バンクと臍帯血バンク

1. 骨髄バンク
 - 1) 組織と活動内容
 - 2) 登録から移植までの手順
 - 3) 血縁ドナーからの移植とどこが違うか
2. 臍帯血バンク
 - 1) 組織と活動内容
 - 2) 登録から移植までの手順
 - 3) どの臍帯血を選ぶか
 - 4) 臍帯血バンクデータ管理システム
 - 5) 臍帯血の提供前検査
 - 6) 遺伝子型HLA適合度と移植成績
 - 7) 成人臍帯血移植の成績
 - 8) 成人臍帯血ミニ移植の成績
 - 9) 小児臍帯血移植の成績

第7章 疾患別移植の適応ガイドライン

1. 急性骨髄性白血病
2. 急性前骨髄球性白血病
3. 成人急性リンパ性白血病の造血幹細胞移植療法
4. 慢性骨髄性白血病に対する造血幹細胞移植
5. 慢性リンパ性白血病
6. 非ホジキンリンパ腫
 - 1) 高悪性度リンパ腫 (アグレッシブリンパ腫) の移植適応
 - 2) 低悪性度リンパ腫
7. ホジキンリンパ腫
8. 成人 T 細胞白血病・リンパ腫
9. 多発性骨髄腫
10. 原発性マクログロブリン血症
11. 再生不良性貧血
12. 骨髄異形成症候群
13. 骨髄線維症

14. 慢性活動性EBウイルス感染症
15. 固形がん
16. 自己免疫疾患
17. 先天性疾患の移植適応とその治療成績

第8章 合併症とその対策

1. 急性放射線障害
2. コンディショニング時の悪心・粘膜障害
3. VOD
4. 生着不全
 - 1) 急性GVHD
 - 2) 慢性GVHD
6. 感染症
 - 1) 細菌感染
 - 2) 移植後真菌感染症対策
 - 3) 造血幹細胞移植に伴うウイルス感染
 7. 血栓性微小血管症 (TMA)
 8. 免疫抑制剤による脳症
 9. 出血性膀胱炎
 10. 不妊
 11. 晚期障害
 12. 小児の合併症
 13. 造血幹細胞移植に合併する精神障害
14. 造血細胞移植術後の原病再発

第9章 移植患者の看護

1. チーム医療における看護師の役割
2. 移植看護専門職の育成
3. 幹細胞移植における薬剤師の役割
4. 感染予防と管理
5. ストレスと心理社会的ケア
6. 抗がん剤の取り扱い
7. 食事
8. 口腔ケア
9. リハビリテーション
10. 小児造血細胞移植患者の実態と看護の特徴

第10章 移植医療の将来

1. 成人に対する造血幹細胞移植
2. 小児に対する造血幹細胞移植の歩みと将来

月刊「血液・腫瘍科」編集委員会・編 / 103名分担執筆
B5判 678頁 / 図283 / 表192 定価21,000円(税込み)・送料弊社負担